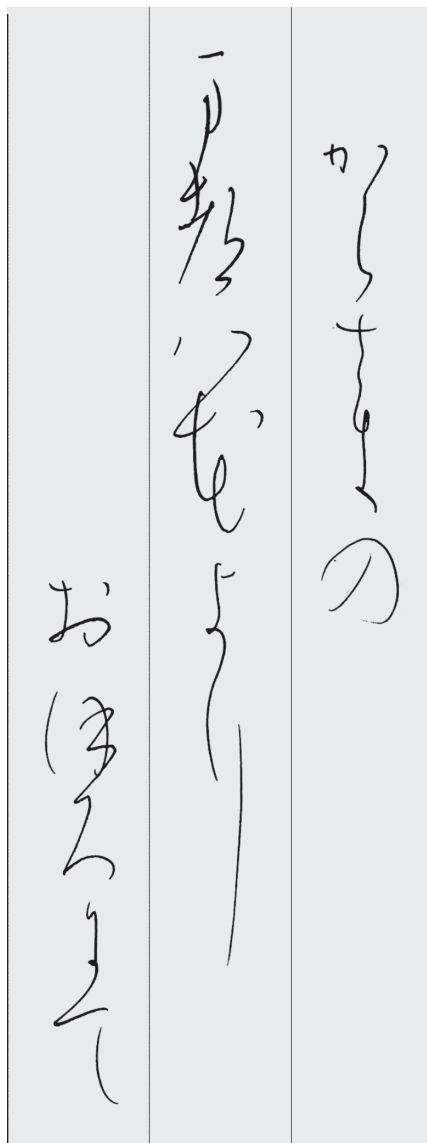


憲照先生の手本ア・ラ・カルト(10)
(à la carte)

締切り 十月二十五日(必着)

昭和61年4月



つけペン・墨汁使用

〔古筆参考〕

支き 都っ 保ほ 尔に
あはれ 都っ 保ほ 尔に
あはれ 都っ 保ほ 尔に
あはれ 都っ 保ほ 尔に

からさき^支のまつ^{万都八}は花よりおぼろ^{保尔}にて

■文字の変換・配字は自由です。

- ◎ 本会は、今年で創立六十六周年を迎えます。昨年はコロナ禍で、世界中が混乱に陥り、本会としても過去にない大打撃を受けました。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。
- ◎ この現状を踏まえ、今年の短期特別課題は、『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一種類を四ヶ月交替で掲載していく予定です。
- ◎ 多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。
- ◎ 創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

〔作品の出し方〕

- ▼ 今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。
- ▼ 硬筆ならば用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。
- ▼ 出品制限の対象とはなりません。
- ▼ 事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。
- ※ 不明な点は無記入でも結構です。
- ▼ 優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。
- ▼ 月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様をお願いします。

▼ 松尾芭蕉(一六四四～一六九四・江戸中期の俳人。伊賀の国、上野の武士の家に生まれた。それまで遊戯と考えられていた俳諧を、すぐれた文学に高めた功績は大きい)

からさき
辛崎の松は花より朧^{おぼろ}にて

▼ 湖水一面おぼろに霞みわたる中、湖岸の辛崎の松は背後の山の桜よりさらに朧^{おぼろ}で風情が深い。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

敵量に進勝後会

※楷書は波法（点線部分）をしっかりと書くことが大切です

丸みを

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

敵を量りて後に進み
勝つを慮りて
後に会す

新井龍峰書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

と間忙仕事来

スツと

仕	忙	と
事	し	か
が	い	く
よ	時	人
く	程	間
出		は
来		
る		

古田瑞苑書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★とかく…（書体Ⅱ行書）

徳富蘆花（一八六八～一九二七）

明治・大正期の小説家

よく耳にする言葉ですが、「急ぐ仕事は忙しい人に依頼するのが良い」と言います。

忙しい人は常に仕事が増える前になる前に、こなして行きます。忙しいという自覚があればこそ、次々と仕事が出るのではないのでしょうか。

◆11月課題予告（楷書）

決断と忍耐とは

もっとも高貴な

性質である

★敵を…（書体Ⅱ楷書）

孟子（前三七二～前二八九）

中国、戦国時代の儒学者・思想家

敵の軍勢が多いか少ないか、装備は

どうかを測定した上で進撃します。

勝てる見込みがあれば進撃して戦います。初めに誤算をすれば、失敗は避けられません。

相手の力量を見誤らないことが肝心であり、ビジネス戦線でも同様です。

◆11月課題予告（行草または草書）

筆を用いて工み

ならざるを思えず

精神の到らざるを思う

▼教範・書範Ⅱ行書

▼師範Ⅱ楷書

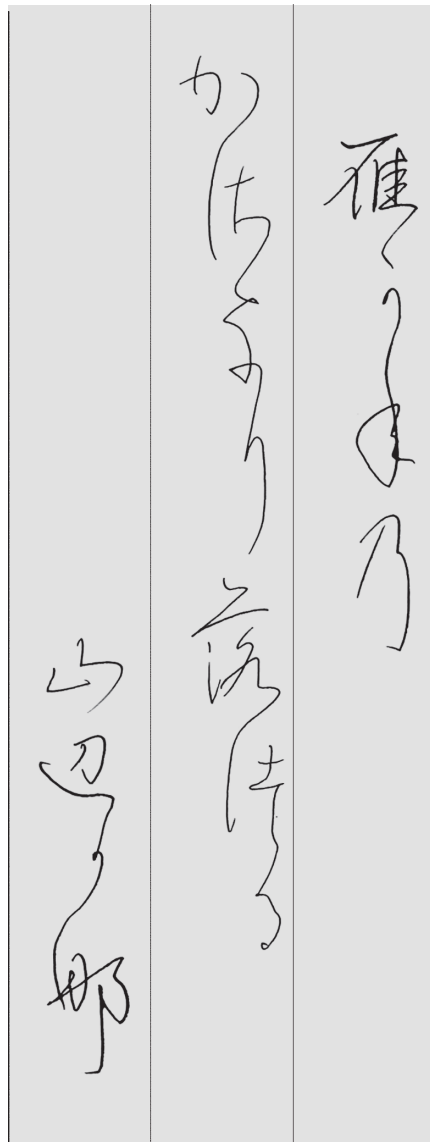
一般部かな課題

締切り 10月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

雁
かりがねの重なり落つる山辺かな



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

雁
かりがねの重なり落つる山辺かな



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

◆11月課題予告

秋の山とどころに烟たつ

(加藤 暁白)

【解説】へゝの横線は縦目にと、縦線に触れたり突き抜けたり、同じ三本線を書きません。

農 閑 佐 奈 徒
あ ぶ へ へ へ
あ ぶ へ へ へ
あ ぶ へ へ へ
あ ぶ へ へ へ

【古筆参考】

かりがねの重なり落つる山辺かな
(三浦 樗良)
【句解】秋の空を高く一列に棹のようになつて飛んできた雁の群れが、次々と山の一箇所へ重なるように下りて行った。
【鑑賞】雁は夕暮れの空や、月夜の空によく見られる。この句の場合は仮寝の宿りを求める雁であろうから、夜空としたい。空は月の光に明るくても、山々はすっかり夜の闇に沈み、黒く横たわっている。その山辺に重なり落ちる雁の群れを描写した清澄な叙景句である。

締切り 10月25日(必着)

味覚の秋、芸術の秋となり、益々
健やかに充実した日々をお過ごし
の事と存じます。コロナウィルスの
影響を受け、今年もペン字展は中止
になりましたが、作品作りだけは
欠かさない様に頑張ります。

味覚の秋、芸術の秋となり、益々
健やかに充実した日々をお過ごし
の事と存じます。コロナウィルスの
影響を受け、今年もペン字展は中止
になりましたが、作品作りだけは
欠かさない様に頑張ります。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

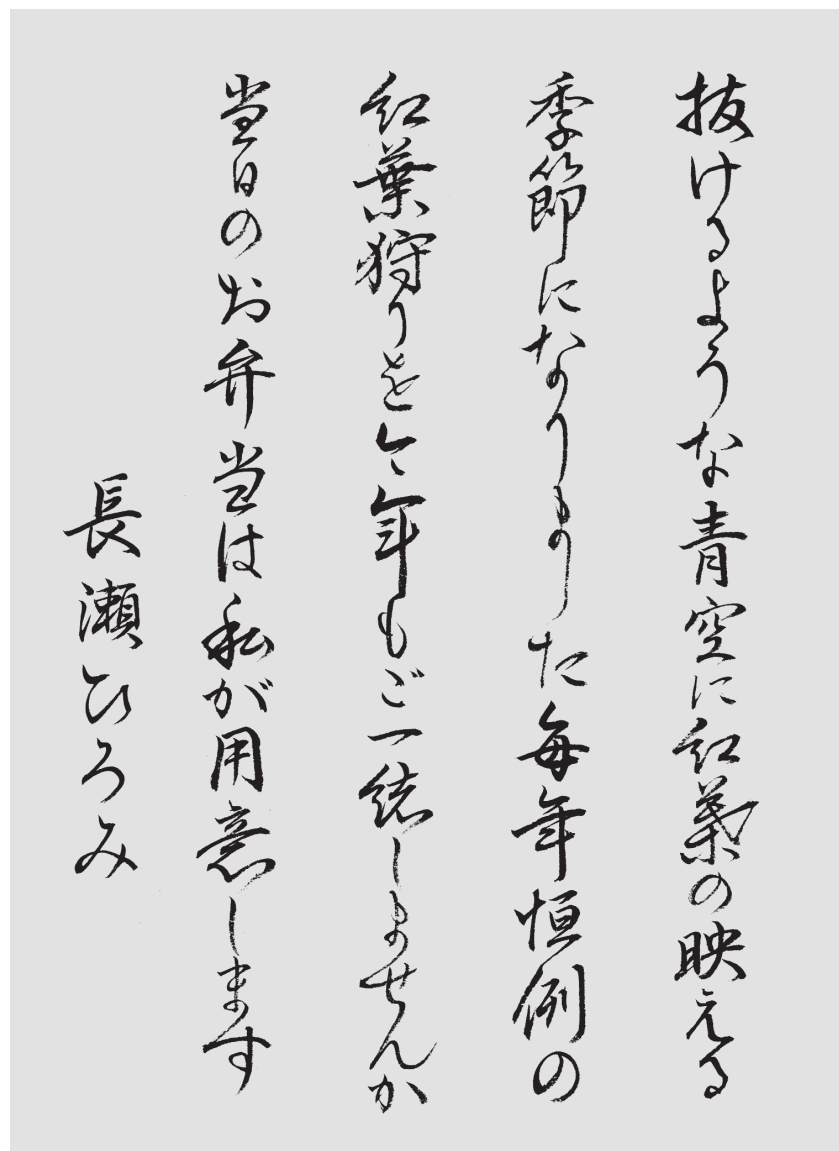
もずはヒバリや他の鳥の鳴き声を
まねるので「百舌鳥」と書く。

新潟県佐渡市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 十月二十五日 (必着)

半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙書

秋風窓下琴書静

夜景門前人吏稀

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績 (天位〜5等) は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- ・ 印で墨つぎしました。
- ・ 抜けるような青空に紅葉の映える季節になりました。毎年恒例の紅葉狩りを今年も一緒にしませんか。当日のお弁当は私が用意します。
- ・ (ご自分の氏名)

〔条幅解説〕
大相撲、手をついて立ち上がるあの瞬間、欧法や虞法の楷書の臨書、起筆から次に移る瞬時に、私の心と手が一致しない、うまく書けない、半面そこに惹かれます。一作目は欲も無く何のてらいもなく起筆、あとは手が勝手に動いた卒意の作。これが未熟な現在の自分の姿に思えて凡作を承知の上で本部へ届けました。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔大意〕心地よい秋風のもとで琴書にふさわしい静けさである。日暮れになると来客もない。

新入から1級まで(行書)

須田一葉書

秋聲天地間

〔解説〕

秋
聲
天
地
間

秋聲天地間
〔大意〕見渡すかぎり、秋の風情が漂っている。

◎上達のポイント

一年に亘り、書道に関するあれこれを述べてきましたが、一番重要なことは初歩の方に限らず基本を大切にすることだと思っています。楷書、行書の違いを考え、運筆にも緩急があり、抑揚が大切であること、また起筆・終筆の会得で格段の違いが出ること等、常に研究を持って書に対峙したいものです。

今月の課題と自分の氏名欄を見るだけでなく、解説文、写真版の批評欄も丁寧に読み込み、自分の書作に生かすことが肝要だと考えます。補足ですが、落款(氏名)も作品の一部であると認識し、お稽古しましょう。

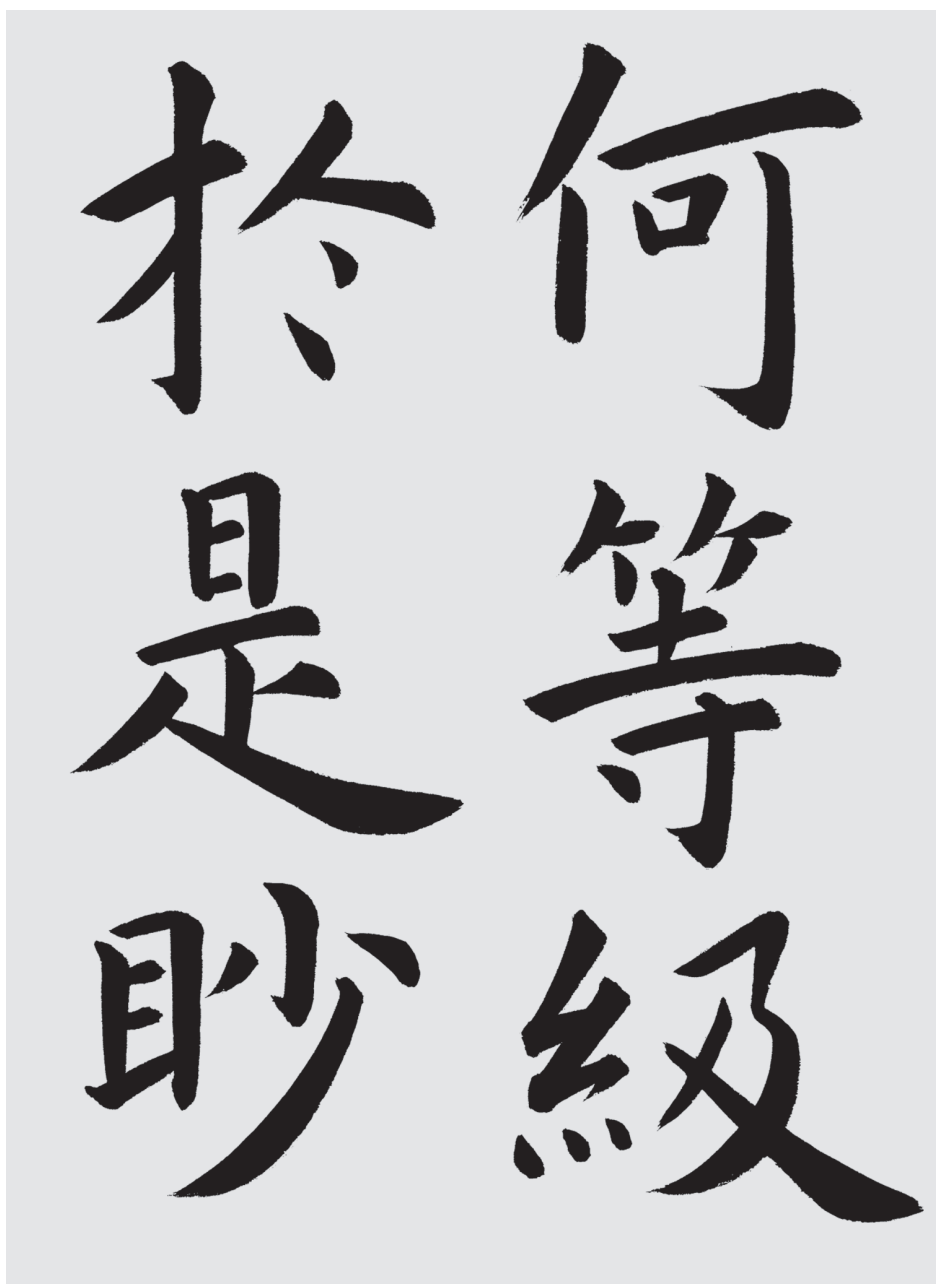
書道の歴史や教育書道との違い(旧字体や書写体等)、また特殊な書道用語についても機会があればお話したいと思っています。

◆11月課題予告(楷書)

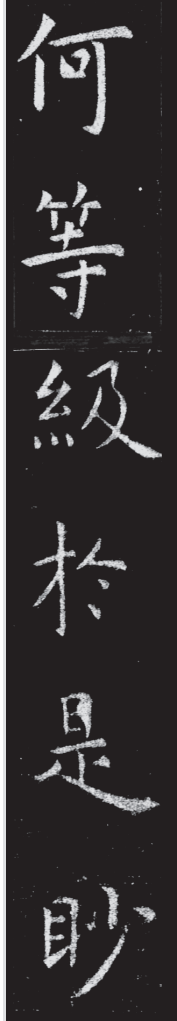
千峰黄
葉村

準初段から師範まで

新井龍峰 臨

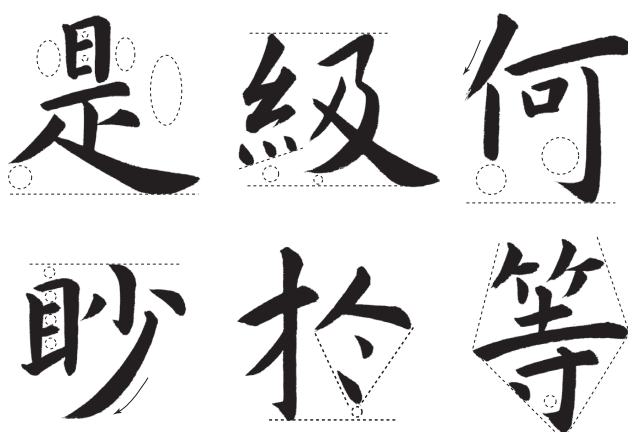


何
等
級
於
昽

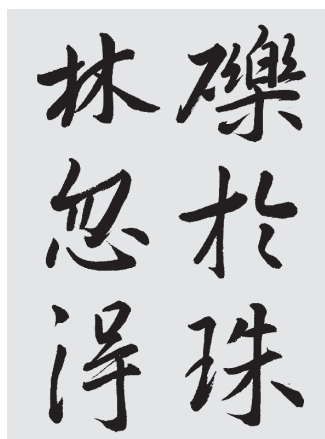


〔出典〕 孔子廟堂碑（六二六～六三三）
 〔筆者〕 虞世南（五五八～六三八）
 〔読み〕 何ぞ等級あらんや。是に於
 て（聖謨を）昽（属し）

〔解説〕



◆11月課題予告



新入から1級まで

浅井機山先生書

白樺^{しらかば}を幽^{かす}かに霧^{きり}のゆ^由く音^具か^{於登可}

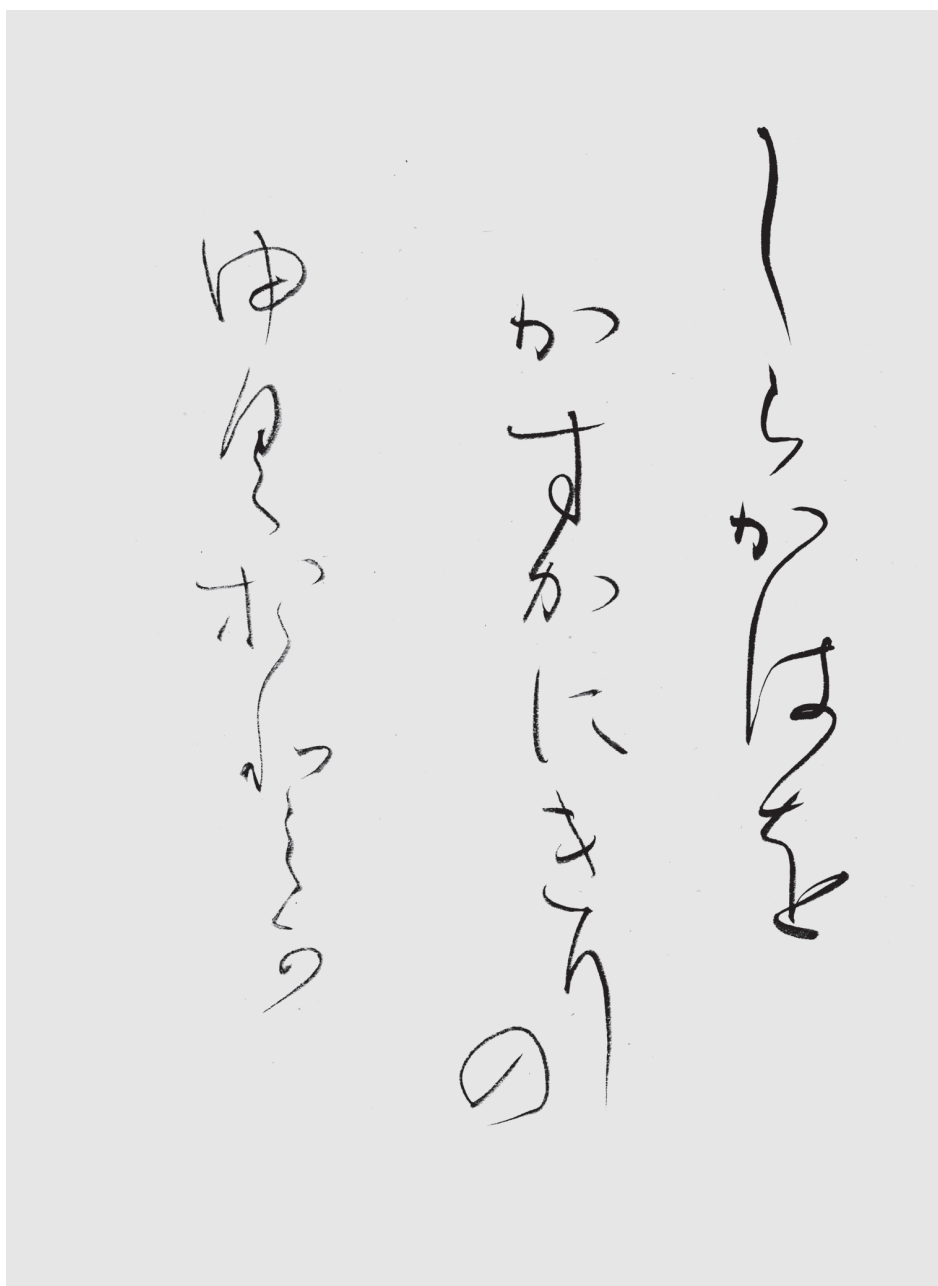
水原秋桜子^{みずはらしゅうおうし}

〔句意〕

白樺を流れる霧は、幻想的である。耳を澄ますと幽かに霧の流れる音がする。高原の静寂さの表われた句。多分に唯美的である。

◆11月課題予告

おのいれ 斧入て香におどろくや冬^{ふゆ}こだち



〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

3行で並んだ行間は、第1行と第2行の間より、第2行と第3行の間の方が広い。〈行間の広狭の変化〉

もう一つは第2行の下に添えてある「の」です。この1字は全体の中で丸い形ですが、安定した土台のような役目を果たしています。

それでは1行1行見ていきましょう。

「しらかはを」

「し」、突いて（蔵鋒）毛先にバネをかけて1、2、3とだんだん速度を上げて引きます。〈し〉のように長い線は、上から下まで同じ速度で引いては絶対にダメです。ここではゆっくり↓少し速く↓もっと速くです。

「ら」、「し」の上の方の流れを受けて書きます。「し」の終わりの流れに気を取られて受けると1行の流れがガタガタしてしまいますので注意です。

「かはを」、行の流れを捉えながら揺れを「を」で安定させます。

「かすかにきりの」

「の」、この1行をがっちり書くと全体の動きが止まりますから、素早く書いて最後は思い切ってスッキリさせます。

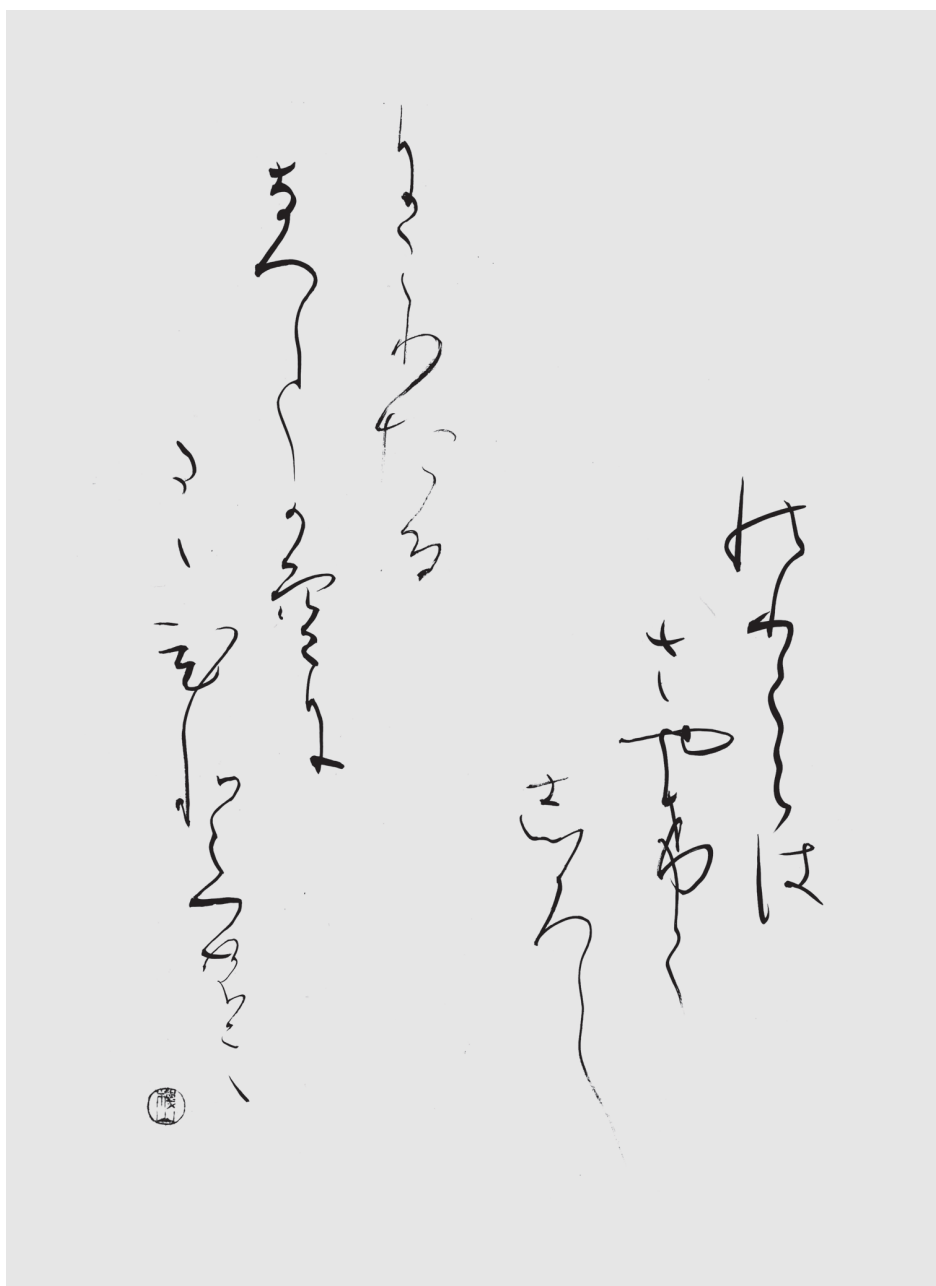
「由具於登可」

「由」、書き出す位置は、右2行の頭をしっかりと見つめます。字形も単体で、少し左へ傾けて〈動きのある字形〉にします。

「可」、上からの流れを「登」の終わりにから揺らぎを作りながら書きおさめます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



乗鞍はさやけく白しにぎりたる

なべてが空にただ一つのみ

〔歌意〕 雪におおわれた乗鞍岳は、さやけく真っ白である。曇り濁った空の中にただ一つだけが。

◆11月課題予告

行く水の目にとどまらぬ青水沫
鵲の尾は触れにたりけり

〔解説〕

料紙は、鳥の子紙（雁皮）に、うすい鼠色の〈具引き紙〉で明るい感じですが。ほかしも模様も見えないくらいです。すから、散らし書きは思いのままというところ。この散らし書きは、古筆『寸松庵色紙』などに見られるものです。

まず全体を見てみましょう。

右3行、左3行の構成で、右左でバランスをとるということになります。さて、1行1行見ていきましょう。

「能利くらは」

「能」、動く字形で書き出して、「利くら」、で力強く長く下にひっぱり安定させます。「は」、流れをわずかに右に寄せます。

「志ろし」

ここまでの3行の行間は、大体等間隔ですが、ここで墨量が少なくなっています。左余白へゆったりした感じで溶け込むようになります。

「尔こ利たる」

墨量は少なくなつたまま上へあがって、「尔こ」と書き出し、「利たる」で大きく動いて右の余白へ働きかけて溶け込みます。

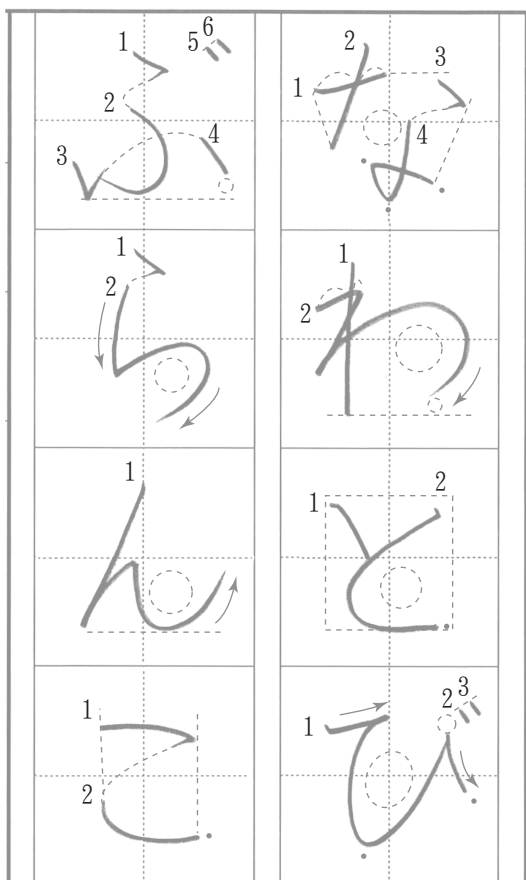
「奈へ弓可空尔」

「奈」、で小さく太く書き出し、「弓」、で字幅を細く書いて変化を作り、「空」、右集団を意識して大きく。

「多、飛登つ農三」

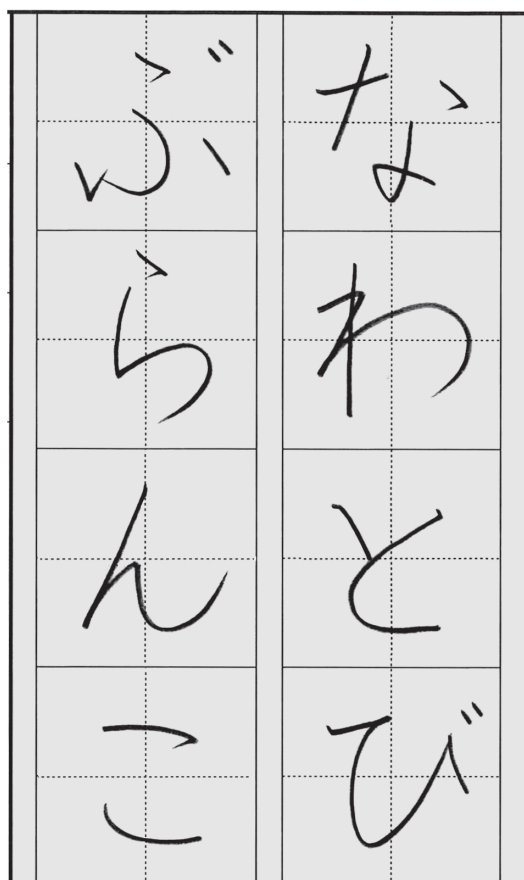
左の3行集団を締めくくりながら、全体を安定させます。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



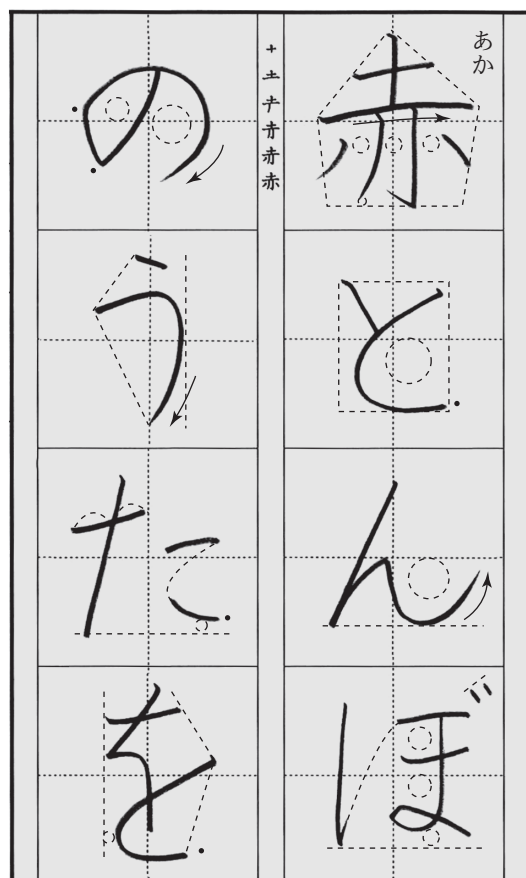
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

ざ	リ川	川	かわ
し	ト上	上	かみ
歩	ある	を	
く		め	

新入1級

の	し	川	小二年 準初段以上
中	て	上	
を	父	を	
歩	と	め	
く	山	ざ	

家	いえ	わ	小三年 準初段以上	
で		り		
勉	ベン	算		ザン
強	キヨウ	を		

新入1級

く	算	苦	小三年 準初段以上
さ	を	手	
ん	家	な	
勉	で	わ	
強	た	り	

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

は	一ナ大太	太	タイ
雨	あめ 一フコ平	雨	ヘイ
い	シシ洋洋	洋	ヨウ
る	イ和側側側	側	がわ

新入1級

雨	太	明
が	平	日
ふ	洋	の
る	側	午
よ	は	後

小四年

準初段以上

輪	一ナ大	大	ダイ
切	き(り) 和和根根根	根	コン
調	チヨウ ノハ今分	分	ブ
理	リ 一ノ厚厚厚	厚	あつ(く)

解説(よく見て習いましょう)

し	く	大
調	輪	根
理	切	を
す	り	分
る	に	厚

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四年以上
岡嶋桂川書

〈用具〉自由(黒色に限る)

ノル牛牛生	生 (は(える))	トク	特
コウ	高	ベツ	別
ザン	山	チ	地
タイ	域	イキ	域

解説(よく見て習いましょう)

山	に	特
帯	生	別
の	え	な
植	る	地
物	高	域

小六年

(全員)

放	期	生
送	演	中
し	奏	継
ま	会	で
す	を	定

中二・三年

(行書)

び	仕	奇
出	掛	想
す	け	天
絵	の	外
本	飛	な

中一年

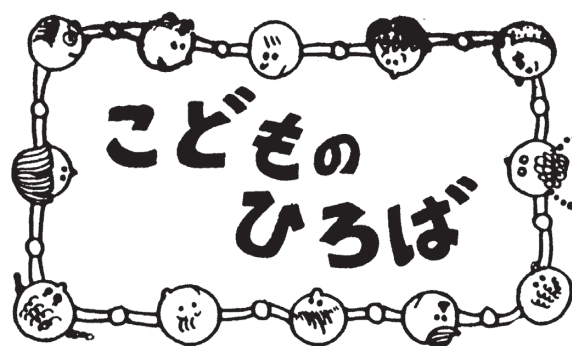
(行書)

▼小三年以下の課題 田 中 愛 紅 書

弟 ^{おとうと}	注 ^{ちゅう} 意 ^い	つり	谷 ^{たに} 間 ^ま	山 ^{やま}
と	し	橋 ^{はし}	に	お
わ	て	を	か	く
た			か	の
る			か	
			る	



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 10月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 高 原 飛 水 書

三 ^{さん}	熱 ^{ねつ}	即 ^{そく}	昼 ^{ちゅう}	姉 ^{あね}
分 ^{ぶん}	湯 ^{とう}	席 ^{せき}	食 ^{しょく}	と
間 ^{かん}	を	う	は	二 ^{ふたり}
待 ^{まち}	注 ^{そそ}	ど		人 ^{ひと}
っ	い	ん		の
	で			



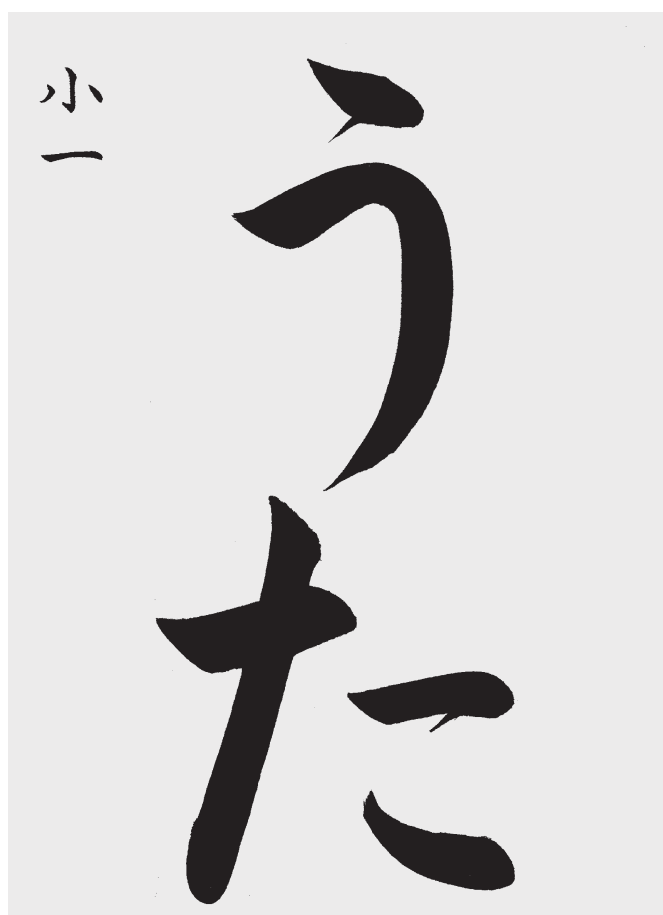
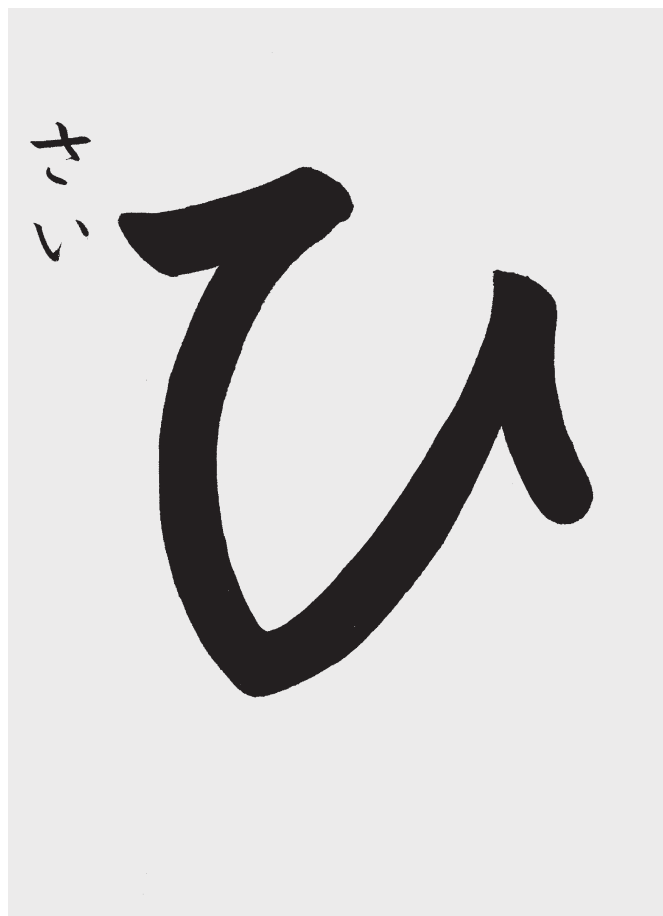
◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年
酒井智仔書





小三〜小五年
水野碧友書

中三
演定期奏

小六
植高山物

小六／中二・三年
玉樹小華書

想 植
期 物
奏 奇

中一
天奇
外想

※行書は線の連なりを大切に！